

ささやき

編集・発行：特定医療法人 明和会 琵琶湖病院
聴覚障害者外来スタッフFAX：077-579-5487
TEL：077-578-2023
E-Mail：mimi@biwako.or.jp

～イグノーベル賞受賞に寄せて～

村上 純一 診療部長（精神科 医師）

平成23年9月、イグノーベル化学賞を、滋賀医大今井講師ほか7名と共同受賞しました。テーマは、かつて「ささやき」にも寄稿した、「わさび臭を用いた非常用警報装置の開発」です。今回貴重な経験ができたのは、参加者など研究に様々な形で関わっていただいた琵琶湖病院の方々を始めとするみなさんのおかげであり、聴覚障害に関する様々な課題に取り組んできた病院ならではのことだと思います。関心をお寄せ下さった全ての皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。そしてこの機会を通して、聴覚障害を有するみなさんにとっての災害時への備えの大切さを、広く世に認識いただくことを微力ながら願っています。

さて、イグノーベル賞とは一体何でしょうか？「まず人々を笑わせ、その後に考えさせる」研究に与えられる賞であるようです。平たくいうとノーベル賞のパロディであり、ignoble（恥ずかしい、下品な）のもじりとも言われています。本家とは異なり賞金はゼロ、授賞式出席のための渡航滞在費用も全額自腹です。受賞式では賞の主旨に則って「笑いをとり、かつ考えさせる」スピーチが求められます。

事の始まりは数年前にさかのぼります。香りに関係したビジネスを展開しているシームス株式会社から、「わさびを使った火災報知器を開発中であり、実際に睡眠中のヒトが覚醒できるかを検証してほしい」という依頼があったのです。私たちは、これまでも睡眠障害を対象とした臨床研究や、脳波など、主に生理学的手法を用いた基礎研究に取り組んでおり、時折このようなユニークな依頼が舞い込むことがあります。以前には、電車の揺れや心拍数と同じ周波数で振動する安眠のための枕の性能実験をしたこともあります。

わさびには、アリルイソチオシアネート（AIT）という成分が含まれています。これはわさびの、ツーンとした辛みをなす成分であり、スプレーは化学合成されたAITを空気中に噴射するものです。実際にスプレーを体験してみると、目、鼻を中心に、あの辛みが直接粘膜を刺激する感覚を受け、なかなか強烈です。これはいかにも目が覚める働きがありそうでした。実用化に向けて、防災関連メーカーであるエアウオーター防災のチームも携わっていました。

さっそく、今井講師を中心に、脳波で睡眠段階を判定しながらわさびスプレーを噴射して、覚醒までの反応速度などをみるため、実験計画が組まれました。

この火災報知器は、聴覚障害を有する方や難聴の高齢者を対象としたものですので、実際に聴覚障害を有する方、有しない方ともに参加者を募りました。ふだん、眠りに関する実験というと、参加者は夜遅くにあれこれされるわけで、時々参加者集めに骨折りすることがあります。この実験は、なぜかとても参加者の集まりが良かったです。どんなものだろうという興味を引いた面があったのでしょう。

参加者の皆さん、開発メーカー担当者の方々和我々は、夜な夜な集まっては、病棟の睡眠検査室で実験を繰り返しました。睡眠研究の苦勞の一つに、実験に入るためにちゃんと眠れるかという点があります。普段と全く違う環境で眠ろうとするわけですから、「いつでもどこでも眠れます！」とおっしゃる参加者の方でも、全然寝付けないことはざらにあります。さらに「眠ったらそこでわさびスプレーが噴射されます」と告げられているわけで、深夜まで参加者は寝付けず、モニタ室にいる私たちがうっかりするとうたた寝てしまいそうにな

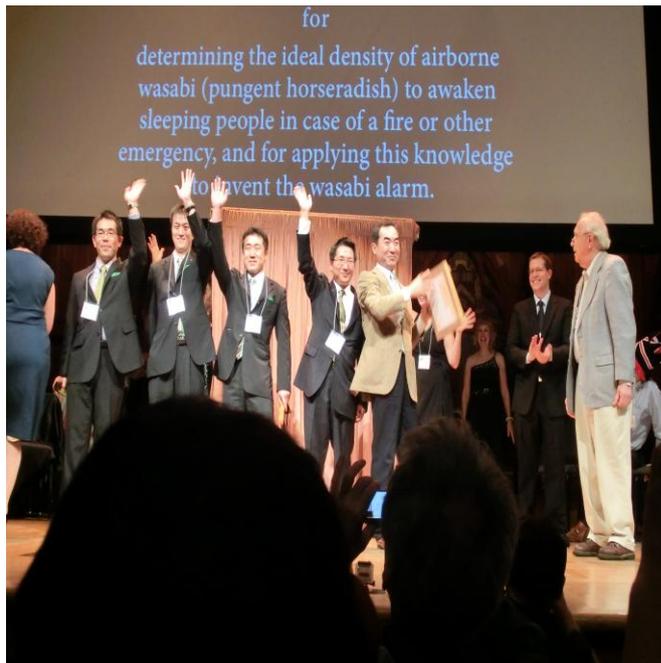
る、そんなこともあるのです。眠りに入ったことを確認し、いざスプレーの噴射ボタンを押します。数十秒ほどで多くの方が覚醒し、事前の指示通り手元にあるブザーを鳴らしました。実験の結果、わさびスプレーで鼻づまりの方1名をのぞいて皆さんが起きられたこと、聴覚障害を有する参加者が、より早く目覚めることが分かりました。

授賞の知らせは、授賞式を3ヶ月ほど遡った時期に、今井先生の元に届いた一通のメールでした。私たちはイグノーベル賞というものを漠然としか知りませんでした。最初は研究者を狙った新しいサギの手口なのではないかといぶかしがったくらいです。やがてこれは何だか妙なことになったという思いと、嬉しさが入り交じった気持ちになりました。

授賞式は、米国マサチューセッツ州ボストンにあるハーバード大学、サンダースシアターという古めかしい講堂で行われました。ボストンは都会ながら緑が多く、レンガの茶色がよく映えるとても美しい町でした。大学の町として知られ、多くの若者が集まる、活気ある町でもあります。式典は受賞スピーチの他にも、ユニークな科学実験、寸劇、受賞者たちもコーラスに参加するミニオペラありと盛りだくさんの内容で、知的で洗練された、楽しいイベントでした。授賞式にはmiss sweetie pooという可愛らしいお嬢さんが登場し、スピーチが1分を超えるとトコトコとやってきてPlease stop! I' m bored! (もう飽きたわ! 止めてちょうだい!) と、実に良く通る声で叫びます。お菓子などで買収が可能だという噂もありますが、定かではありません。

いざ私たちのスピーチの番です。WASABI という和の食材がこういった研究の材料に使われたことが興味を引いたようで、予想した以上に笑いを誘っていました。今井先生がスピーチを、私たちはちょっとしたパフォーマンスをして、まずまず無事に賞をいただくことができました。本家ノーベル賞化学賞の受賞者と握手し、トロフィをいただき、とても嬉しかったです。

このようないきさつで、今回は普段なかなかお会いすることのない方々とお出会いし、とても面白い経験ができました。科学研究は本来たいへん地味なものです。私自身上手く行かない研究は山ほどしており、まさかこういった形で皆さんに知っていただく機会を頂くとはい夢にも思いませんでした。科学をもっと身近に、面白いものとして親しんでいただければ何よりです。今回はちょっとおちゃらけた賞ではありますが、この技術が災害時において、皆さんのお役に立てることを、心から願っています。



編集後記 今年もささやきを宜しくお願い致します

